

聖書日課 『からし種』 2022.8.7-8.14

|  |  |
|--|--|
| <p>8月7日<br/>(日)<br/><br/>創世記<br/>14章</p> | <p>『アブラムを裕福にしたのは、このわたしだ』と、あなたに言われたくありません(23節)。アブラムがケドルラオメルとその連合軍を破って帰ってきた時、ソドムの王は「人はわたしにお返しください。しかし、財産はお取りください」とアブラムに言った。その時答えて言ったのが冒頭の聖句。神のみに従うアブラムの姿勢が表れている。</p>     |
| <p>8日<br/>(月)<br/><br/>創世記<br/>15章</p>   | <p>「アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた」(6節)。80代になるアブラムに神は「あなたから生まれるものが跡を継ぐ」と言われた。アブラムだって不信はあったと思う。主はその彼を外に連れ出して、「天を仰いで、星を数えることが出来るか。あなたの子孫はこうなる」(私訳)と言われた。すると彼は信じたのだ。</p>       |
| <p>9日<br/>(火)<br/><br/>創世記<br/>16章</p>   | <p>「ハガルは『あなたこそエル・ロイ(わたしを顧みられる神)です』と言った」(13節)。ハガルこそ女主人サライの犠牲者だ。しかし、彼女はシュル街道に沿う泉のほとりで神と出会う。女主人の冷酷な扱いと荒野の孤独の中で、自分を見守ってくれる神と出会うことが出来、さらにこれからも支えてくださる希望を持って生きていくことが出来る。</p> |
| <p>10日<br/>(水)<br/><br/>創世記<br/>17章</p>  | <p>「わたしは全能の神である。あなたはわたしに従って歩み、全き者となりなさい」(1節)。これは99歳のアブラムに主が言われた言葉。先にも(15章)主からの祝福を受けているアブラム。さらに今回は永遠の契約をするという神。人は全能の主の偉大な力によって強くされる。人の全き歩みも主からいただくのではないか。</p>           |

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.8.7-8.14

|   |  |
|---|--|
| <p>11日<br/>(木)<br/><br/>創世記<br/>18章</p> | <p>「なぜサラは笑ったのか。… 主に不可能なことがあろうか」(13-14節)。主がアブラハムに語りかけている言葉をサラはすぐ後ろの天幕の入り口で聞いていた。サラは、来年の今頃自分に子供が生まれる？あり得ないと思って笑ったのだろう。しかし、笑ったのを知られていて恐ろしくなった。全能の神には全てが可能なのだ。</p>                 |
| <p>12日<br/>(金)<br/><br/>創世記<br/>19章</p> | <p>「命がけで逃れよ。後ろを振り返ってはいけない。…さもないと、滅びることになる」(17節)。これはなかなかその気になれないロトたちに、主がロトたちを町外れへ連れ出したときに言われた言葉。その後、小さな町に彼らが逃げた時、ソドムとゴモラは硫黄の火で焼かれた。決断がつかない時、このような主の力が働くことを覚えたい。</p>             |
| <p>13日<br/>(土)<br/><br/>創世記<br/>20章</p> | <p>「この土地には、神を畏れることが全くないので、わたしは妻のゆえに殺されると思ったのです」(11節)。アブラハムがゲラル滞在のおり、妻を妹と偽ったため、ゲラルの王にサラは召入れられてしまう。ゲラルの王アビメレクに神は夢の中で忠告され、大事には至らない。神が天地万物を造られたことを信じらるなら、対話を生み出す事が出来るのではないか？</p>   |
| <p>14日<br/>(日)<br/><br/>創世記<br/>21章</p> | <p>「ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子供の泣き声を聞かれた。立って行って、あの子を抱き上げ、お前の腕でしっかり抱き締めてやりなさい」(17-18節)。今日もどれほど多くの社会的立場の弱い人びとが荒野に追いやられていることか。主はその涙を受けとめ、生きる励ましを届けてくださる方。この主を共に礼拝する者とされて。</p> |